



文武
將士

英勇圖譜

全

千 5
3750





45
3750



序

一氣已秘陰陽既分而始判万物之中
 人最靈妙也と古書に及るる友木大和
 なる人君天地の幽微に通じて養生乃
 塗炭をともすといふ外れ深理を達して
 形類乃存亡を初く送じていふは子
 るく理うてきりり候といふ事なりと
 是武と大み智仁勇の三徳と兼ぶて

元帥の事ありては、いかに英傑の
 多し優劣ありては、いかに武道の
 ありきと云ふ事ありては、いかに
 心とよせ軍中と云ふ事ありては、
 事との業と云ふ事ありては、いかに
 後にもありては、いかに武士の
 頼いは、いかに和歌に、いかに
 古くも文武乃將士、いかに

戦馬

写し各其詠教とありて、いかに
 ありては、いかに心中乃優劣を
 ありては、いかに士と云ふ事あり
 ともみ仁と云ふ事ありては、いかに
 文武乃士英傑、いかに
 川光信、いかに

浪花 宜春堂著老誌



足利家の一族中典義の良おなり利世上に流布する庭訓を研一忠信武勇と云
 おきんやうのふりかたとて人あはれまじきあうく人かまきとせ上倭は曲の人と云
 きまらう了後のふりかたとて智仁勇徳と云るまじきとて人あはれまじきと云



細川右左衛門頼之

美ぞと云

ほねに云

目と云

人さ
 られ種

世の中



大徳元年

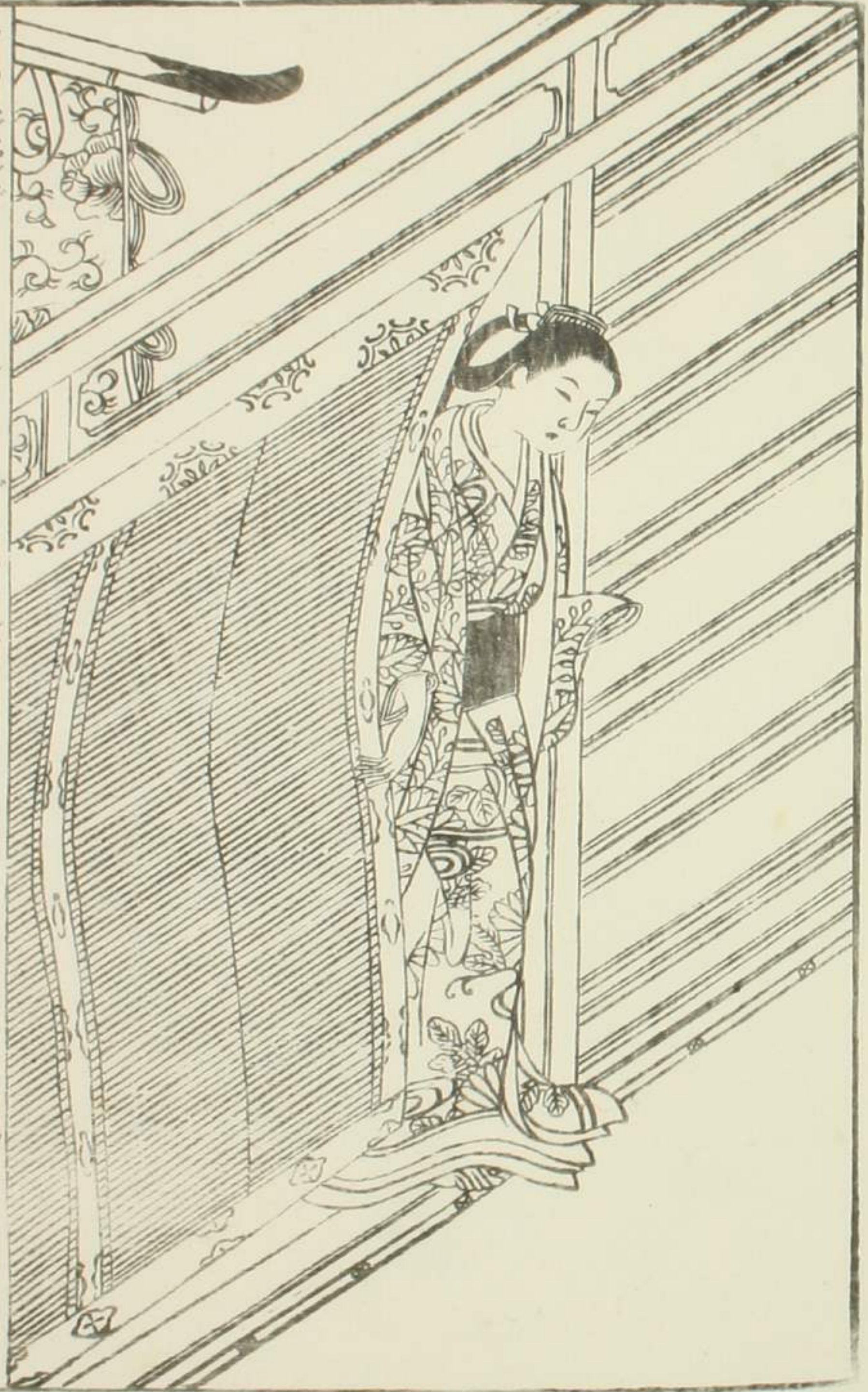
鎌倉の御執権上杉家の長はさう其の御奇人にて智勇兼備の武士なり上杉家の
 の不和なるを合戦とて及ばぬとて其の御奇人にて智勇兼備の武士なり上杉家の
 不和なるを合戦とて及ばぬとて其の御奇人にて智勇兼備の武士なり上杉家の



源三位頼政
 常房の
 よこ
 きま
 の
 色乃
 なる
 なる

源三位

小松田大は手巻の紅家は母若右の對を嫡男と感す小松のの儀と申すまはしに付下りしは故と
 する女の丸はよ出るはとまりてよあてさう日暮りよし南ははくぬきとさふは家ののん秋の
 田んこはようこのさうしんさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう



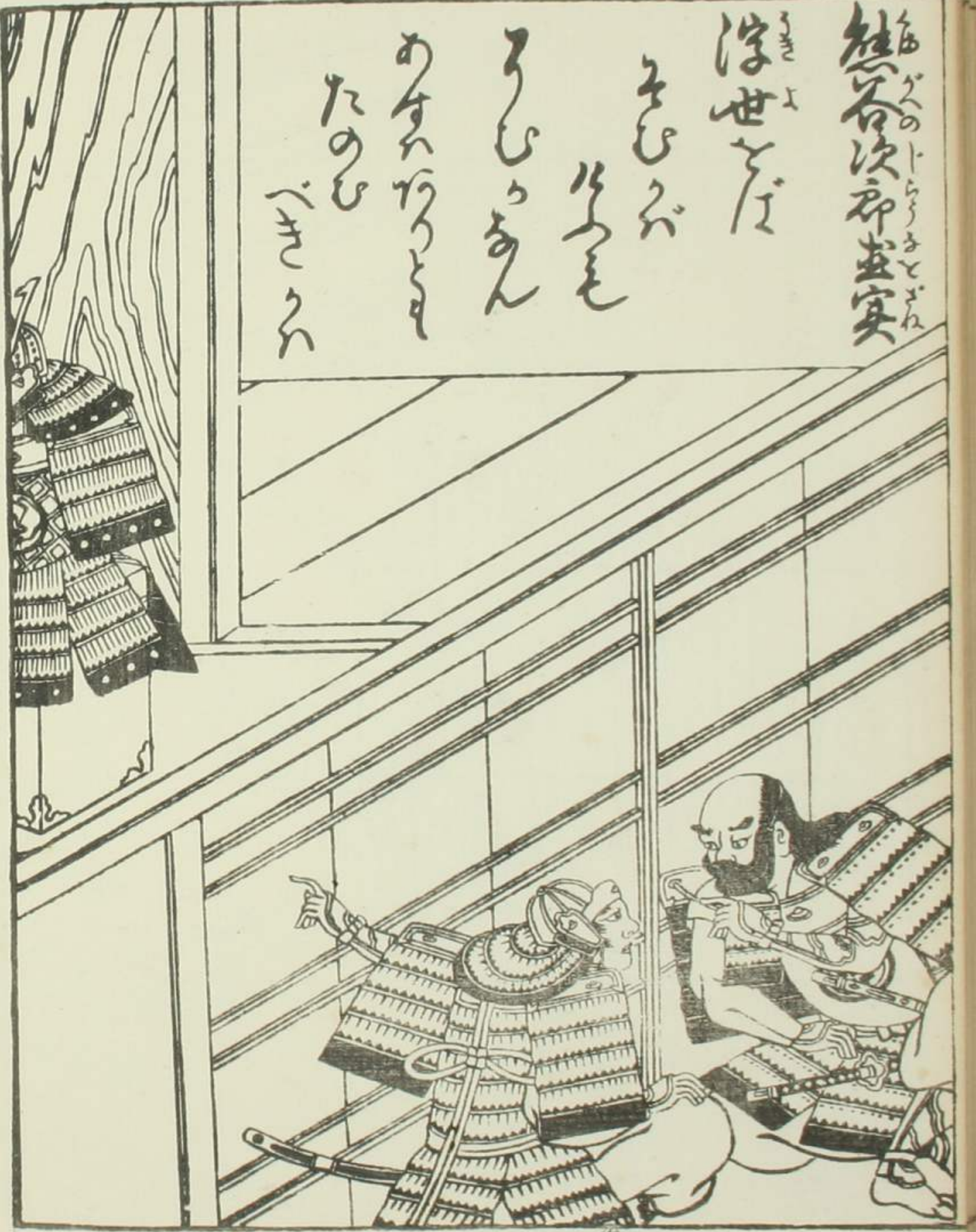
秋の田乃 秋の田乃 秋の田乃
 世より 世より 世より
 君が 君が 君が
 枕と 枕と 枕と

秋の田乃

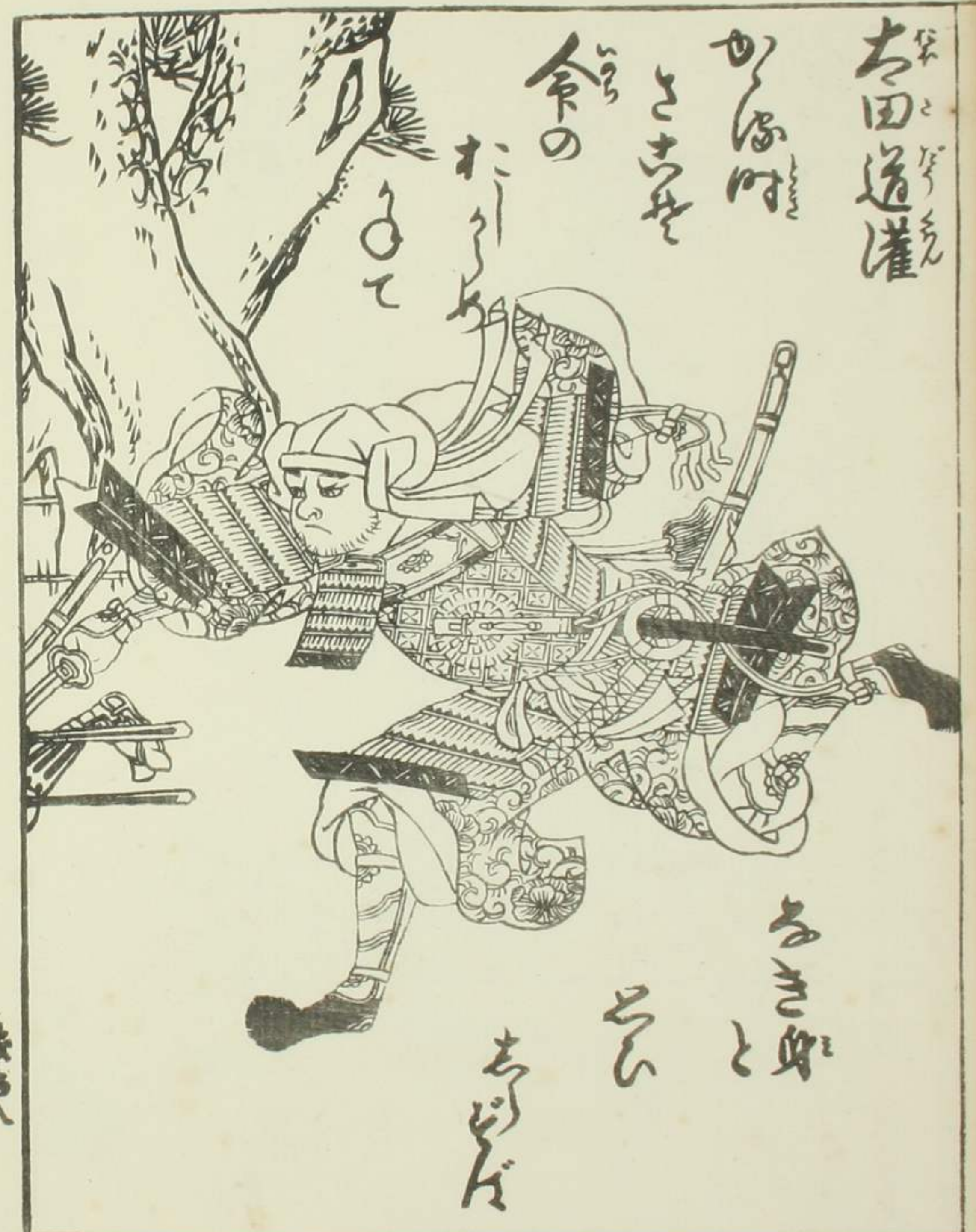
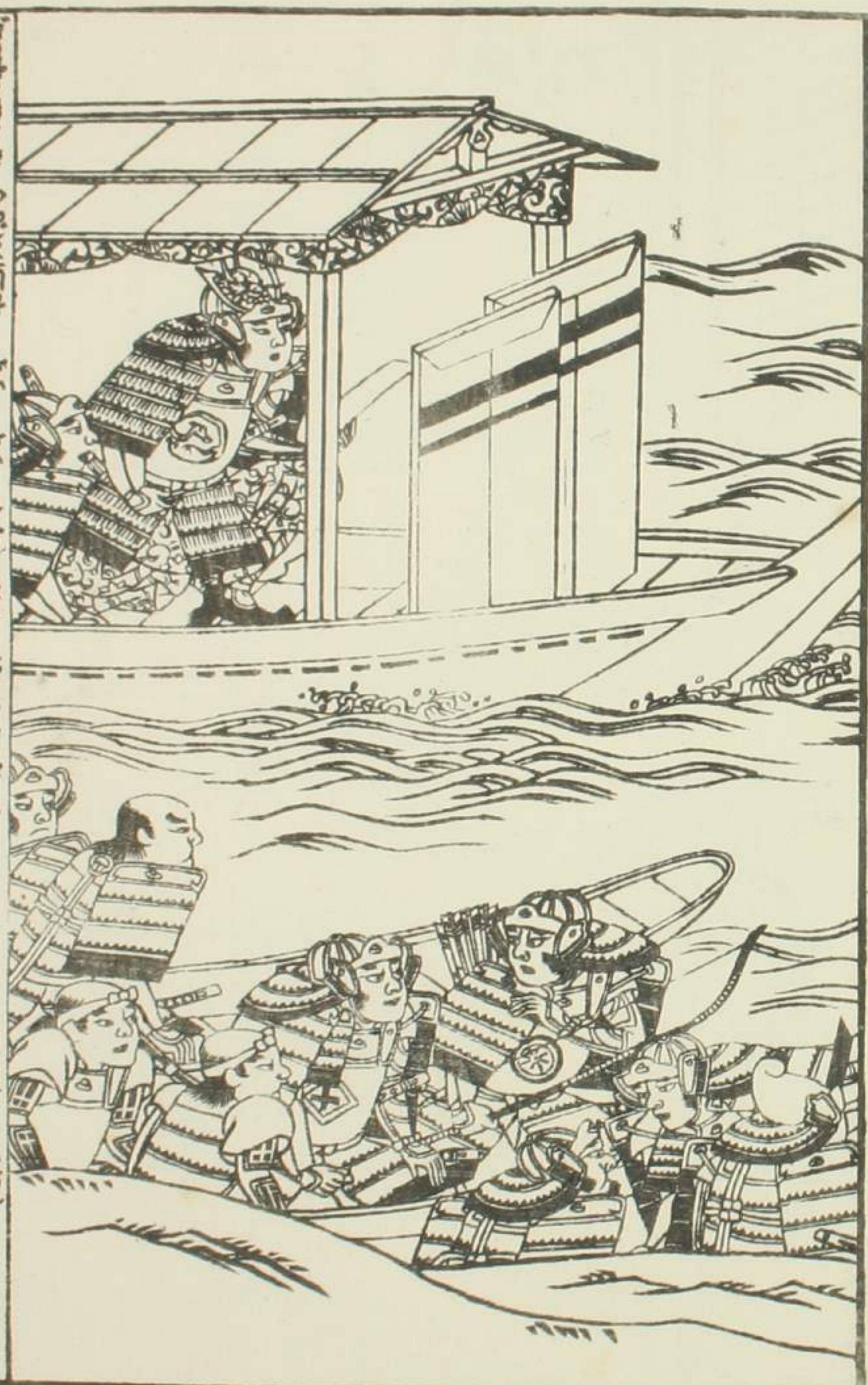
武家の團は信人私黨旗印めて文武勇の士是然を手にして自然石と号する
 の職は元谷にありて方丈政を所けしより出家して運照と号し家の公のわがごころは
 うしは一日も早く出家せむれ地をわけてゆく命をまじりて無常道にまはる



徳谷次郎忠実
 浮世さば
 きじふ
 けふも
 るじつあん
 のせんりつとも
 たのじ
 へきふ



長谷川左衛門尉三郎重忠の謀略武勇りて討つ相模の赤松氏を
 秋に湖上舟とて先陣の首有ぬの月にと向く湖とてせしめてまの上へいそぎ
 らんまのちてよふるとはやいそぎといふゆゑ詞をきとせり



赤松氏
 赤田道灌

今
 今

今
 今

今
 今

今
 今

今
 今

今
 今

桓天白玉の流胤の伊勢の國に信長よつて伊勢守
沖代祇園の史よりなとてる女を嫁にす
いふと秘蔵のしるをなす月をのりて



刑アに忠登

有明の

月いりぬ

浦風み

波げら

と
さそ

と
えんが

足利孝氏

のあたる

ほと

うとん

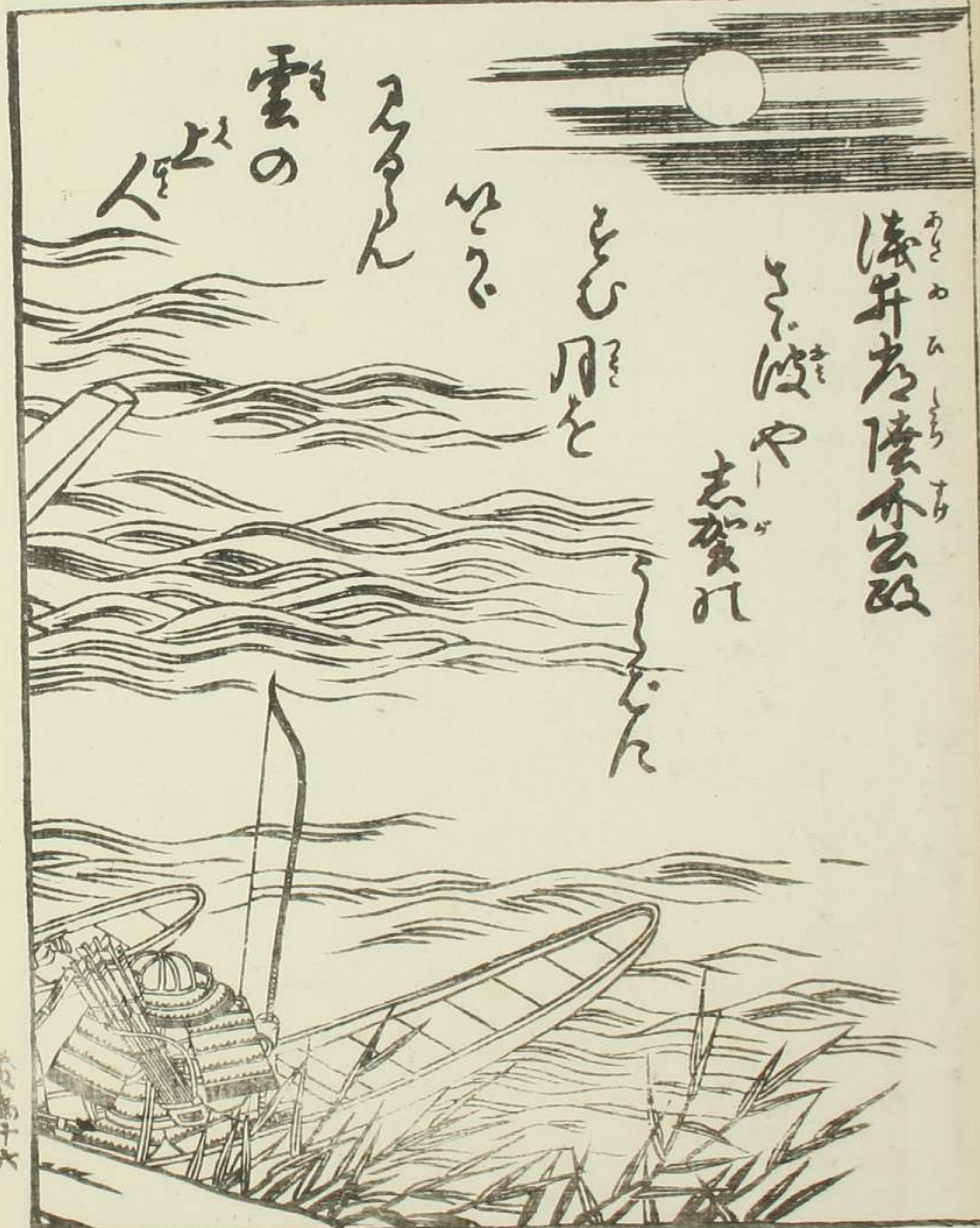
この浦の

まじく
まぬ

おく



上校後を代はれなき名おのちの名り素虎と号しお家系探の意なりとありて
 郷虎とぬら川中流の合流に其の舟を立ぬの良なりとありて一任と舟隊とを
 志人の大猛將といふなり





春の風は暖かき
 花の香は清き
 木の下は静かき
 人の心は静かき
 春の風は暖かき
 花の香は清き
 木の下は静かき
 人の心は静かき
 春の風は暖かき
 花の香は清き
 木の下は静かき
 人の心は静かき



春相
 清室
 ゆくと
 うご
 こまる
 何れ
 ちい

上杉輝虎入道

余了

七葉毛

おのれ

おのれ

おのれ



卷之三

